

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	山 平 芳 美																
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当																		
<p>論 文 題 目</p> <p>カンボジア初等教員養成校における学生の体育授業観の様態に関する研究 — 体育科教育法と教育実習の前後の変容に着目して —</p>																			
<p>論文審査担当者</p> <table border="0"> <tr> <td>主 査</td> <td>教 授</td> <td>齊 藤</td> <td>一 彦</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>沖 原</td> <td>謙</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>小 山</td> <td>正 孝</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>岩 田</td> <td>昌 太 郎</td> </tr> </table>				主 査	教 授	齊 藤	一 彦	審査委員	教 授	沖 原	謙	審査委員	教 授	小 山	正 孝	審査委員	准教授	岩 田	昌 太 郎
主 査	教 授	齊 藤	一 彦																
審査委員	教 授	沖 原	謙																
審査委員	教 授	小 山	正 孝																
審査委員	准教授	岩 田	昌 太 郎																
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、カンボジアにおける体育科教育や初等教員養成に関する課題を踏まえて、学校教育の体育とスポーツや教員養成の概観、初等教員養成カリキュラムである「教員養成プログラム基礎レベル 小学校における教授（12+2）」について整理した上で、カンボジアの初等教員養成校（Provincial Teacher Training College：以下「PTTC」と略す）の学生を対象として、体育授業観の様態を明らかにしたものである。</p> <p>本論文は、序章、文献研究を中心とした第1章～第3章、事例研究である第4章～第7章、そして終章を含めた、以下の9つの章で構成されている。</p> <p>序章では、「開発と平和のためのスポーツ」、カンボジアにおける体育科教育や初等教員養成について概観し、体育授業観に関する先行研究の検討がなされた。</p> <p>まず、第1章の文献研究では、カンボジアの学校教育における体育とスポーツの概観として、先行研究からカンボジアを対象とした学校教育の体育とスポーツに関する研究動向の特徴を明らかにし、今後の研究の課題として5点が導出された。第2章では、カンボジアの教員養成に関する研究動向について論じ、とりわけ、教員養成でも教育実習に着目した研究を蓄積していくことが課題であることを示した。第3章では、カンボジアの初等教員養成カリキュラムである「教員養成プログラム基礎レベル 小学校における教授（12+2）」から、体育科教育と教育実習の内容分析を行い、体育科教育法は体系的かつ系統的な構成であったこと、そして教育実習はPTTC1年次と2年次で設けられている特質を明らかにした。</p> <p>次に、第4章の事例研究では、カンボジアX州PTTC1年次の学生を対象に、体育科教育法「前期」を受講したことで学生の体育授業観が保持され続けるのか、あるいは変容が認められるのか質問紙調査を通して分析した。その結果、体育科教育法「前期」受講後では、カンボジア王国小学校保健体育科指導要領の目的や目標を包括した体育授業観から、カンボジアの教育的な背景を内包しながら、教授行為や授業の運営に焦点をあてた体育授業観への変容がみられた。また、初等教育段階において体育授業を受ける機会に恵まれなかった、もしくは覚えていない場合、体育授業観の再構築や変容が生じやすい傾向が示唆された。第5章では、X州PTTC1年次の教育実習生を対象とし、教育実習前後における</p>																			

体育授業観の様態とその変容について、質問紙調査とインタビュー調査が行われた。その結果、教育実習生は効果的特性に着目した体育授業観を保持していたことが明らかになった。一方、教育実習前後において教育実習生全体の体育授業観の変容はみられなかった。第6章では、X州PTTC1年次である入門期の学生を対象とし、体育科教育法「後期」の受講後における体育授業観の様態について質問紙調査を通して分析した。その結果、体育授業では児童に配慮すべきであるという考えを有していたことが特徴として挙げられた。一方で、PTTC入学当初に保持していた健康へ寄与すべきであるという考えが強化されていたことも明らかになった。第7章では、X州PTTCの学生が被教育体験期からPTTC入学段階にかけての体育授業観の形成過程について分析した。その結果、PTTCの学生は、学校スポーツの影響を受けながら体育授業観を形成してきたことが明らかになった。また、PTTCでは上級生との関わりや教育実習の時期・時機が体育授業観の形成に影響していることも示唆された。

最後に終章では、本論文の総括と成果が述べられ、今後の課題が挙げられている。

本論文は、以下の4点で高く評価できる。

1. 「開発と平和のためのスポーツ」の背景を踏まえつつ、カンボジアの学校教育における体育とスポーツに関する研究動向や教員養成に関する研究動向の特徴を明らかにしたこと。さらに、カンボジアの学校教育における体育とスポーツに関する研究動向から教員養成に関する研究を蓄積すること、また教員養成については教育実習に関する研究の積み重ねが必要であるということを示した点。
2. カンボジアの初等教員養成カリキュラムである「教員養成プログラム基礎レベル 小学校における教授(12+2)」から、とりわけ体育科教育法と教育実習の内容が明らかとなり、体育科教育法「前期」、教育実習、体育科教育法「後期」という順序のカリキュラムの特質が示されたこと。
3. カンボジア王国小学校保健体育科指導要領の目的や目標を包括した体育授業観、カンボジアの教育的な背景を内包しながら、教授行為や授業運営に焦点をあてた体育授業観を、PTTCの学生が保持していたことを解明したこと。また、PTTCの学生が初等教育段階において、体育授業を受ける機会に恵まれなかった、もしくは覚えていない場合、体育授業観が再構築されやすい傾向が示唆されたこと。そして、カンボジア王国小学校保健体育科指導要領が新訂されて間もないカンボジアでは、教育実習生の多くが、効果的特性に着目した体育授業観を保持していたことを明らかにしたこと。さらに教育実習後に、体育授業が有益であることを伝えたいという考えを持つ教育実習生の存在が示されたこと。
4. PTTCの学生を対象として、被教育体験期からPTTC入学段階における体育授業観の形成過程を、「出来事」、「時期・時機」、「境遇・状況」の3つの観点から詳述したこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 3年 2月 9日